

目次

1. 活動場所及び活動日時
2. 各地の活動内容の報告及び所感
3. 全体を通しての所感

1. 活動場所及び活動日時

全体の活動日時 2014年8月11日（月）～8月24日（日）の2週間
全体の活動場所 新潟県長岡市内の2地域、南魚沼市、十日町市

1-1. 活動日時 8月11日（月）～8月20日（水）

活動場所 長岡市栃尾北荷頃地区
宿泊先 西谷地区開発センター

1-2. 活動日時 8月20日（水）～8月21日（木）

活動場所 南魚沼市、十日町市
宿泊先 長岡ターミナルホテル

1-3. 活動日時 8月22日（金）～8月24日（日）

活動場所 長岡市川口町荒谷地区
宿泊先 宮日出夫さん宅

2. 各地の活動内容の報告及び所感

2-1. 長岡市栃尾北荷頃地区での活動内容

- 8月11日 北荷頃に到着。受入れ担当の山内さん宅で夕飯をいただく。
- 8月12日 集落散策、挨拶回り。
- 8月13日 刈屋さん家の安心野菜にてジャガイモ掘りのお手伝い。
- 8月14日 北荷頃お祭り準備のお手伝い。
- 8月15日 浅間神社祭り、曹源寺御霊祭りに参加。
- 8月16日 お祭り片付けのお手伝い、長生館（旅館）のお手伝い。
- 8月17日 子どもの宿題お手伝い、諸橋英夫さん宅でご飯。
- 8月18日 子どもの宿題お手伝い、新井区長主催の歓送迎会。
- 8月19日 北荷頃地区でお世話になった方々への挨拶回り。
- 8月20日 北荷頃出発。

2-1-1. 北荷頃地区での活動報告及び所感

今年度この地域では2年間続いていた大学生のインターン生の受け入れをしていなか

ったが、北荷頃地区の地域振興担当の栃尾サテライトを通じてインターンの受け入れをお願いした。今回は昨年の活動経験もあり地域の方々も受け入れを許可してくれた。

今回は昨年の活動経験を踏まえ、昨年お世話になった人々に感謝を伝えることを目的として活動した。

まず初めに、集落散策を行い北荷頃でお世話になることを集落の方々へ挨拶回りを行った。昨年度の活動を覚えていてくれた方が多かったため今年度は活動の最初の関係作りにおいては昨年度よりもスムーズに行えた。また、子どもたちも1年間で学年も1つ上がり外見も成長をしており喜ばしく思えた。子どもたちが家庭で私が今年度も活動していることを話してくれたおかげで様々な人から活動を応援する言葉を頂けたり、食糧を頂いたりした。

2年目のお祭り参加について。今年度もお祭りに準備から片付けまで参加をした。お祭りにおいては区長はじめとする区の役員が中心となり各担当を振り分ける。15日の午前中に行われる行列では、衣装を着て集落を回る。小学校低学年までの子は稚児、その他の小学生は笹を飾りつけそれを持ち歩く。育成会とよばれる集落の小学生の保護者の集まりの会では父親たちが衣装を着て奴隊になり踊る。御囃子隊などそれぞれ役割を持ち2時間程度集落を歩く。私は四神の旗の白虎を持ち一緒に歩かせてもらった。

行列参加の時に集落の人から、「昔は2日間かけて集落を回り神輿も出ていた。行列の参加人数も本当に多くて賑わっていた。」とお話を伺った。長年この地域に暮し見守り続けている高齢者の方々はこのことについて口をそろえて言っていた。この話から北荷頃における過疎高齢化問題が見えたように感じた。

私の宿泊先である西谷地区開発センターには浴室がないために、每晚地域の方に借りて生活をしてきた。浴室がないことを集落の方々は知っていてくれたため、たくさんの方が声をかけてくれ浴室を貸していただいた。

その際に浴室を貸していただいた長生館という集落唯一の旅館では今年で発生して10年になる中越大震災についてお話を伺うことができた。

中越大震災の時にこの旅館は仮設住宅建設の作業員が宿舎として利用したという。この旅館では天然鉱泉の温泉が出ていたが、地震を機に出なくなってしまった。地震で減ってしまった客足も長岡花火のおかげもありこの10年で徐々に回復してきているようだ。地震の際は地域住民で協力して地区ごとに集まり安全を確保していたようだ。

昨年度の活動はプログラムがある程度決められ、6人で集団生活をしてきたために集落の人と個人で話す機会が少なかった。今回は1人での活動のため集落の人と深く話せる時間を多く確保でき様々な話を伺うことができた。

そして活動最終日の前日の19日にはお世話になった集落の方々に手紙を作り一軒ずつ挨拶周りをした。50軒の家を一日かけてまわり挨拶をする際にも、家にお邪魔させて頂きお茶を頂いてお話を伺うこともできた。

今回は1人での活動だったために心細い点もあったが、集落の方々にたくさん支えられて活動を行うことが出来た。

2-2. 南魚沼市、十日町市での活動内容

8月20日（水）十日町市でいがたイナカレッジ研修会の平成25年度現代福祉学部卒業の水柿大地さんの講演に参加。

8月21日（木）南魚沼市を平成25年度現代福祉学部卒業の青木優さんによるガイドで散策。

2-2-1. 南魚沼市、十日町市での活動報告及び所感

まず十日町の活動ではいがたイナカレッジが主催をした地域の研修会に参加をすることができた。そこでは水柿さんの講演と地域に関わる仕事についてのワークショップを行った。

講演では水柿さんが出版された本の話を中心に地域に関わる仕事での生計の立て方についてお話を伺った。1年生の時に自分が地域に出ようと思うきっかけとなった人の話を再び聞くことで、自分がなぜ地域に出ようと思ったのか、また地域でやりたいことについて改めて考える良い機会となった。

ワークショップでは地域で働くことについて、1. 生計を立てられるもの、2. 生計は立てられないもの、3. 時間がかかるもの、4. 時間がかからないもの、の4つの分野に分けて、1チーム6人で付箋に書き話し合った。

今回この研修会に参加している人々は多くの方が役所などの地域振興課、新潟県各地の地域おこし協力隊など実際に地域で生業を立てている人々であったので、将来は地域で生業を立てたいと考えている私にとって大変意義深いものであった。

地域に入りその地域で生業を立てることは、決して1人で出来るものではないということが分かった。地域に暮らす人とつながりを大切にして、その地域に何の役目がありどのような効果をもたらすのかよく考え活動していくべきだと学んだ。

次に南魚沼市の散策では八海山の麓周辺を青木さんにガイドをして頂いた。新潟県には何度も訪問しているが、南魚沼市には初めて訪れた。南魚沼市は八海山の麓町で山から流れる河川と一面の田んぼで豊かな自然に囲まれている町だった。

同じ新潟県でも地域ごとに雰囲気は変わり、今回は様々な活動地域を訪問出来たので自分の活動地域の素晴らしさと新たに課題を発見することができた。

2-3. 長岡市川口町荒谷地区での活動内容

8月22日（金）川口サテライト春日惇也さんによる川口案内と散策。

8月23日（土）荒谷工芸品の夫婦杉お守り作り、ミヨ茶作りのお手伝い。

8月24日（日）木沢集落の宿泊施設やまぼうしのお手伝い、中越大震災メモリアル記念館きおくみらい訪問。

2-3-1. 長岡市川口町荒谷地区での活動及び所感

川口町荒谷集落には4月の山菜収穫イベント以来の2度目の訪問になった。荒谷集落は

13世帯の小さな集落だが中越大震災を機に「はーとふる荒谷塾」を開設し住民一体のまちづくりを様々なイベントを開催や企画、民芸品を作り販売することで促進をさせてきた。

川口町の散策では中越大震災の震央地を訪れた。現在震央地では支柱が建てられ、震災のメモリアルパークとして公開をしている。

22日の散策は川口サテライト春日さんと川口で1年間インターンをしている笹川さんの2人の案内で川口町の木沢、田麦山、荒谷の3つの集落を回った。

23日は荒谷の代表的な夫婦杉の葉を御祓いたものをお守りにして販売しているので、その作業工程をお手伝いさせてもらった。お手伝いをさせてもらった宮ミヨさんはお守りの工程を慣れた手つきで作成していた。そのあとは荒谷の山で採れた薬草を使った薬草茶のパック詰めのお手伝いをさせてもらった。薬草茶は宮ミヨさんが販売しているので、ミヨ茶の名前で親しまれている。

その日の夜は集落の方が宮日出夫さんのお宅に集まってくださり私の歓送迎会を開いてくださった。

荒谷には東京から移住をしてきた若い女性もいて、女性の目線から地域で暮らすことをお話し下さり将来参考に出来るようなことをたくさん聞いた。

24日は木沢集落で宿泊施設のお手伝いをさせてもらった。今回宿泊施設を利用していたのは新潟県内の三条市の小学生で木沢の山のフィールドワークとオリエンテーションを体験しに来ていた。私はその小学生について一緒に山を歩き、与えられた課題に挑戦をした。小学生たちと木沢の自然に触れながら楽しむことができた。

午後は長岡駅に移動して震災メモリアル記念館のきおくみらいを訪問した。きおくみらいには震災で被災した物が展示してあったり、当時の被災状況を再現した映像を放送したりするブースがあり中越大震災の事を学べる。

今年は中越大震災から10年という節目の年なので中越全体で震災関連のイベントが催される予定だ。

3. 全体を通しての所感

この2週間の活動を通して、新潟で今までお世話になった方に昨年お世話になったのでまた戻ってきて活動で感謝を伝えたいと考えていたが今年もまたたくさんお世話になってしまい、十分に感謝を伝えることは出来なかったと感じた。

しかし、2年連続同じ地域での活動のおかげで地域の方とのつながりも増えこの地域で活動を継続してもっと親密な関係になりたいと考えた。

そしてこの活動ではまた新たに各地域で活躍する若い世代の人と交流ができて、ネットワークを広げることができた。今回できたネットワークを今後の活動に活かして若い世代の一人として地域おこし、まちづくりに関わっていきたいと考えた。

今後もこの地域に関わると同時に様々な地域で活動を広げていき自分自身の視野を広げていきたいと考えた。